

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

ようこそ府立障害児学校へ

初夏のような日差しのもと、新規採用者を温かく出迎え

任命式会場前宣伝

2018年度府立障害児学校には、45の職場に187人の新規採用者が赴任しました。4月2日の朝、大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)で行われた、大阪府公立学校採用教職員任命式に際して、大障教は恒例となった出迎えの歓迎宣伝をしました。年度初めの多忙な中、9分會19人が参加しました。

「おめでとうございます！」

支援学校に着任される先生はいらっしゃいますか？一緒に学校に行きましょ！任命式の会場前にはこれから同僚となる新しい仲間をさがす参加者の声や響き、スーツ姿で緊張味の初任者のみなさんを励ましてつとめる温かい



初任者と対話する山内副委員長



雰囲気や宣伝となりました。出迎用のタペストリーなどに書かれた自分の名前を見つけて照れながらも安心された表情が見受けられ、心強かつたのではないかと思います。また、顔見知りの参加者を見つけて、ほっとしたように言葉を交わす光景が、あちこちで見られました。



新年度の初日に仕事の手を止めて会場まで足を運ぶのは、大変だったことと思います。参加してくださったみなさん、職場に残って参加者を送り出してください。みなさんのご配慮に改めて感謝します。

昨年度に比べ少ない初任者の方でしたが、府立高校・地域の小中学校・養護教諭・栄養教諭・事務職員の新規採用者を合わせると、700人近くが集まる会場の入り口付近は、開場時間の9時を過ぎるとかなりの混雑となりました。支援学校の先生はおられませんか？の呼びかけに、「私支援学校です！」と笑顔で駆け寄り、資料を受け取ってくれた初任者もおられました。同じ職場の方とつまく出会えなかった分もありませんが、各分会が目立つように工夫を



凝らした手作りの横断幕やフラカード等は、任命式のかたい雰囲気や和らげるのに十分な効果を発揮していました。任命式終了後、宣伝に参加した方々は、初任者といっしょに、年度始めの仕事が山積する職場へと向かいました。2017年度は各分会の奮闘により70人近くの教職員が、新たに大障教に加入しました。2018年度も、初日から新規加入の報告が複数の分会から届き、執行部も元気をいただいています。教育をめぐる状況が依然として厳しい中、新規採用の仲間たちが、子どもたち一人ひとりにしっかりと向き合い、持てる力を教育実践に集中できるように職場環境を作るためにも、引き続き教育条件の改善と、教職員の労働条件の改善をめざすとりくみが重要です。任命式の出会いは生かして、青年・ベテラン問わず、ひとりでも多くの教職員を大障教に迎えることができるように、今年度も創意あふれるとりくみをすすめていきます。

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局のひとりごと

刑法が禁じる賭博場カジノの解禁に向け、与党内で行われてきたカジノ実施法案の検討作業が決着しました。カジノ実施法案とは、2016年12月の国会で自民・維新などが強行成立させた「カジノ解禁推進法」を受け、日本国内につくられるカジノの運営基準などを定めるものです。

今年2月から始まった与党内の協議では、自民党がカジノのもつ優先で規制緩和を求め、一方、公明党が規制強化を求めるといって、対立が演出されました。例えば、日本人の安易なカジノ入場抑制のために、公明党は最低でも入場料8千円(シンガポールなみ)を主張し、自民党は「入場料は必要ない」と主張していました。しかし、最終的には入場料6千円という東京ディズニーランドより安い金額に決まりました。入場回数も、連続する7日間に3回、連続する28日間に10回という制限に過ぎません。

これでは、カジノへの入り浸りを国が公認しているようなものです。さらに、カジノの設置箇所数やカジノ面積の規制、事業者が国や地方自治体に納めるカジノ税率も、海外のカジノ運営企業の不利益とならないよう、「ハードルを骨抜き」にされました。

国民の反対を押し切ってカジノ解禁推進法が成立した直後、カジノ運営企業などでつくる米国ゲーミング協会(AGA)は、法案成立を歴史的成果として評価する、という声明を出し、「日本の政治家を教育してきたAGAの努力の成果だと断言しました。」

カジノの推進は、もつかれば何をやってもいいと考えるようになった危険なカジノ業者に、日本人の貴重な財産を売り渡すものだと言えるでしょう。

支援学校・支援学級の抜本的増設、 小中高校の30人以下学級の実現を

「すべての子どもたちにゆきとどいた教育を求める」 請願署名

大阪府議会に提出

集約数23万5871筆

2月16日、大阪の障害児教育をよくする会、大阪府立高校30人学級をすすめる会、大阪市立高校30人学級をすすめる会、大阪私学助成をすすめる会、子どもと教育・文化を守る大阪府民会議の5団体は、「すべての子どもたちにゆきとどいた教育を求める」請願署名の府議会提出集会を、ドーンセンターで開催しました。集会後、参加者は大阪府庁内で、府議会事務局に集約した署名を手交し、引き続き府議会議長との懇談、府議会各会派への要請行動にとりくみました。当日までに集約された署名は、23万5871筆に達しました。



提出された23万5千筆の署名

大阪の子どもへの貧困対策は実質6千万円増？

開会あいさつを行った、府立高校30人学級をすすめる会の小橋川会長は、「教育で一番大事なのは子どもを育てること。それに逆行するようなことが行われている」と述べ、「署名を通じて教育のことを話し合うことは今だから必要だ」と訴えました。

提出集会には主催者から府議会各会派に出席要請を行い、日本共産党の2人の府議会議員が出席しました。あいさつした石川たえ議員は、大阪府は貧困調査の結果



果に基づいて、来年度予算に貧困対策費3億円を盛り込んだが、実質増は6千万円に過ぎないと述べました。その上で、大阪の子どもへの貧困が深刻な中で、松井府政は本気で対策を講じようとしていないと批判し、「署名に込められた切実な声を議会で取り上げていけるようがんばりたい」と決意を語りました。

すべての子どもに学ぶ権利の保障を



あいさつする石川たえ議員

後半は、各団体の代表が今年の「運動推進の報告」を

行ない交流しました。大阪の障害児教育をよくする会からは、大障教の戸田委員長が事務局長として出席し、知的障害支援学校の在籍者が10年間で1400人増加するとの推計値が出ているにもかかわらず、府教委は学校建設を最小限にとどめようとしている状況を訴えました。

集会の最後に、「少人数学級の推進」「給付制奨学金の拡充」「私学助成の拡充」など、すべての子どもたちに学ぶ権利を保障し、安心して学べる教育環境を整えることなどを求める集会アピールが承認されました。今回、大阪の障害児教育をよくする会が集約した署名は、大障教の各職場から寄せられたものも合わせて3005筆に達しました。多くの教職員のみなさんにご協力をいただき、ありがとうございました。

青年部 Facebook 企画ー 私の鉄板ネタ学習会

3月10日に青年部主催の恒例企画「私の鉄板ネタ学習会」を行いました。実際に授業で実践した内容を持ち寄って学び合う学習会で、10人の参加がありました。

ひとつめは「スライム作り」をしました。作り方の紹介のあと、実際に手を動かしてスライムを作りました。だんだんゼリー状に固まっていく感触を実感したり、となりの人のスライムと合体させて色を混ぜたりして、子どもの気分で盛り上がりました。次に、「インスタントスクリーン体験」を行いました。市販の白いビニールシートを天井に吊るし、プロジェクターを投影して水中の映像を鑑賞しました。空き缶で作ったウォータースティックも活用して、癒やしの空間を楽しみました。



最後の感想交流では、各参加者からも、日々とりくんでいる実践を紹介し合い、楽しくみんなで教材研究ができました。充実した学習会になったと思います。